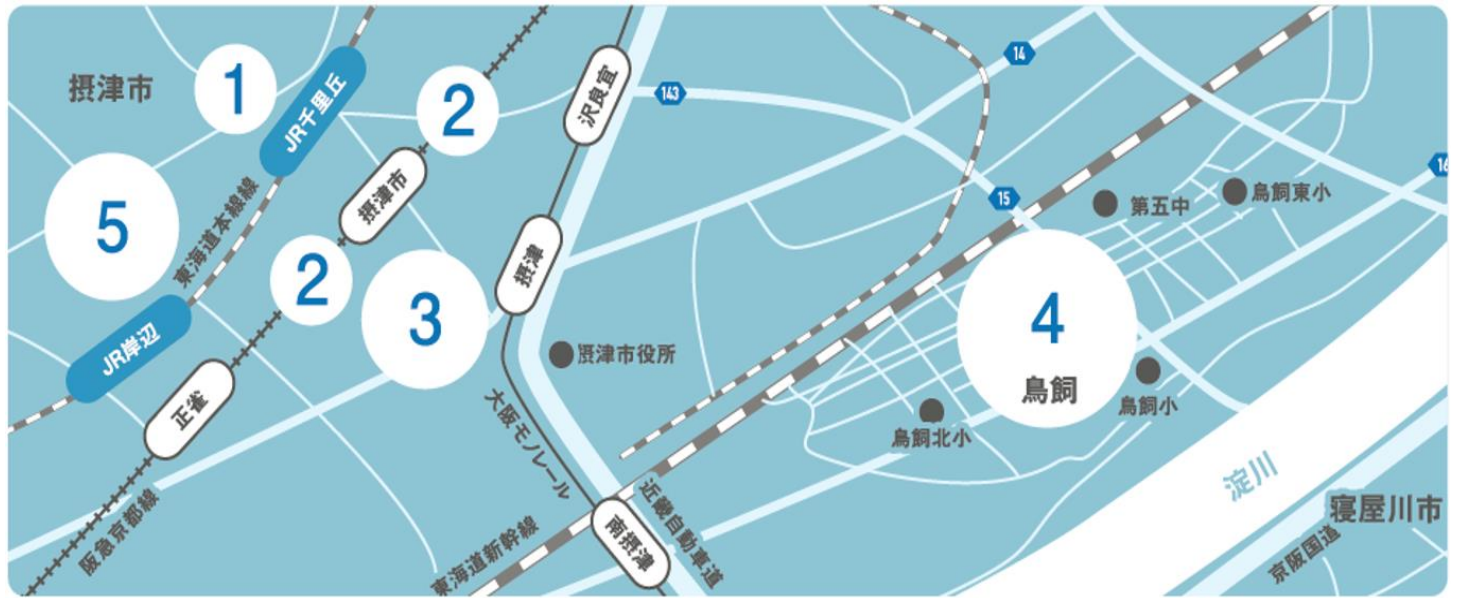
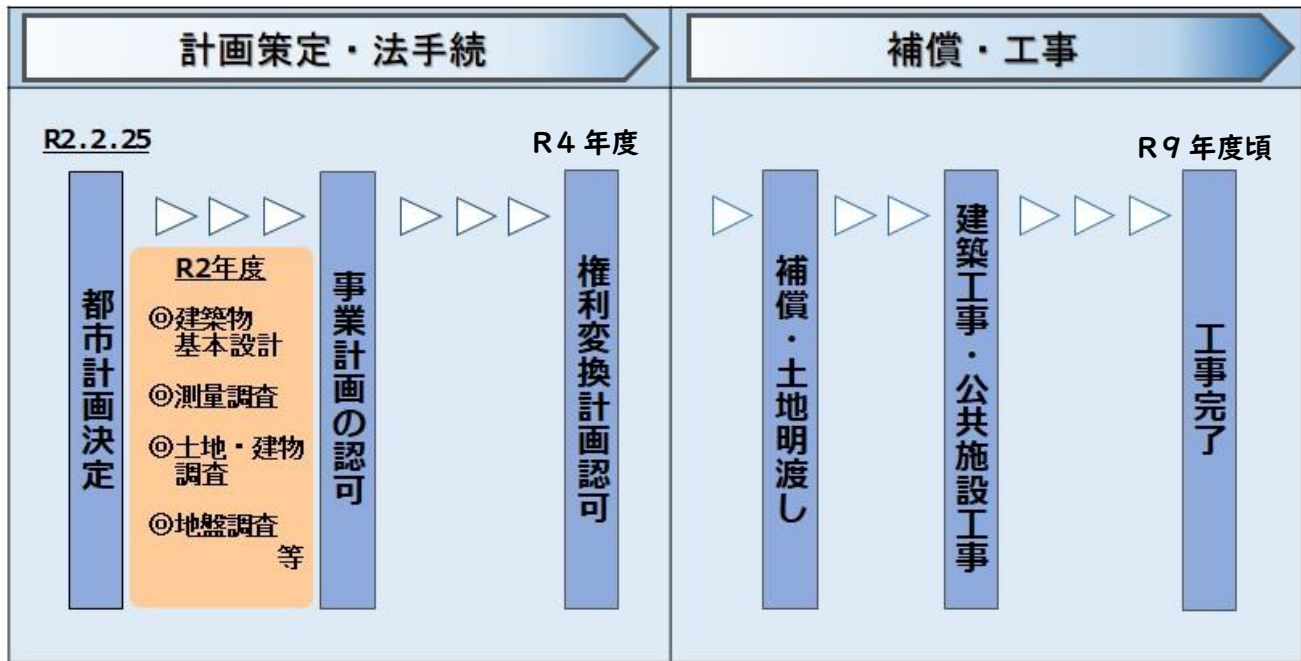


主要事業一覧



①千里丘駅西地区再開発、②阪急京都線連続立体事業、③十三高槻線、④鳥飼まちづくり、⑤健都のまちづくり

①千里丘駅西地区再開発



◎2020年8月19日 事業協力者が決定

代表：大和ハウス工業、JR西日本不動産開発、住友不動産、関電不動産開発、大林組 共同企業体
事業協力者は市が策定する事業計画や権利変換計画に係わる各検討事項に対し、助言や提案などを行う。

◎現在は、事業計画の作成等を進めている。(上記のR2年度部分)

◎補足 市は西地区再開発を合わせて、駅東口の活性化・にぎわいの創出について一体的に取り組むことが重要と認識している。具体的には、千里丘駅西地区のまちびらき後のエリアマネジメントなどの取り組みとして実施していくことになるであろうと予想。なおフォルテ摂津の権利者の方、管理組合等とエリアマネジメントの主体となる民間の事業者等の合意形成が必要になると予想している。(今後の検討)

②阪急京都線連続立体交差事業

◎スケジュール

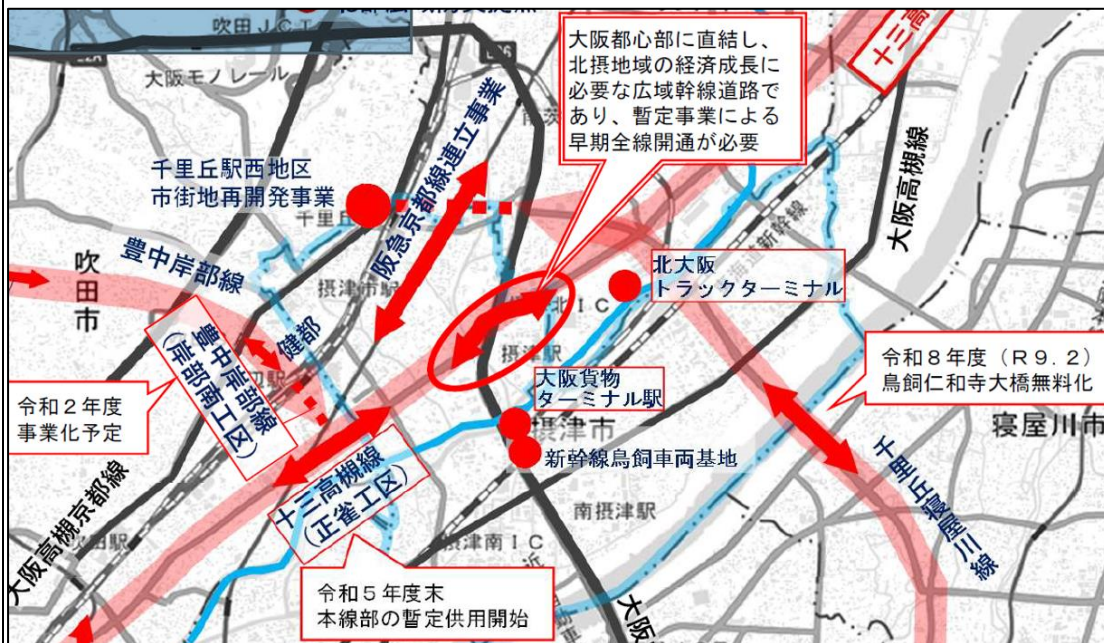
平成30年度～ 用地取得業務（用地測量、境界立会、不動産鑑定、物件補償算定等）

⇒ 令和5年度～ 工事着手予定（目標）⇒ 令和15年度 事業完了予定（目標）

◎R2年度の取組み

千里丘三島線より大阪側について、主に建物調査を実施し、権利者との合意を得られたところから、順次、引渡し等の契約を行っている。用地取得における権利者は千里丘三島線より大阪側が約150名、京都側が約50名である。令和5年度の工事に向け東側・仮線側の用地取得を積極的に進めている状況である。

◎今後は、用地取得を引き続き進めるとともに、摂津市駅の仮設駅前広場の実施設計等を行う。



③十三高槻線の取組み

令和2年8月に市長は吹田市・茨木市とで、中央環状線と十三高槻線の交差部に暫定平面道路設置での全線開通を府に要望した。十三高槻線の全線開通と令和8年度の鳥飼仁和寺大橋無料化が合致すれば市の道路ネットワークの利便性が大きく向上する。

④鳥飼まちづくりグランドデザイン

鳥飼まちづくりグランドデザインの策定が進められている。これは鳥飼地域活性化のために、小規模校への対応、鳥飼全体の公共施設の再配置や公共交通機関の再編等が検討・計画されるものである。国の事業である淀川氾濫対応拠点となる河川防災ステーションとも一定連携が考慮される。



⑤健都のまちづくり

健都イノベーションパーク、約4ヘクタールのうち3区画約1.6ヘクタールの敷地はニプロ株式会社の進出が決定し、令和2年度中の工事着手が予定だったが、コロナ禍の影響で、設計内容や操業開始時期等の見直して、建築計画の検討が進められている状況である。

また、約0.4ヘクタールの敷地では、昨年9月に国立健康・栄養研究所の入居先となるアライアンス棟の整備運営事業者としてJR西日本開発株式会社が決定しており、令和4年度中の操業開始が予定されている。また1

区画、JR岸辺駅寄りの約0.36ヘクタールでは、吹田市で令和3年2月上旬頃に優先交渉権者が決定される予定である。本市所有地となる約0.6ヘクタールについて公募時期は未定。